

山口県における高大連携教育と大学広報

堀 江 穆

要旨

山口大学の中期計画で示された経営方針は「学生を主体とした大学づくり」である。その中の大学広報、とりわけ入試広報が果たす役割は大きい。現実の問題として、従来の広報は、社会が山口大学を国立大学として認知されている事を前提した上で作業が行われてきた。大学法人となったいまはより強い個性が求められる。その方策を探るために高大連携教育の現状を分析し、新しい施策の基礎となる部分を模索した。

キーワード

大学広報、入試広報、高大接続、高大連携教育、出前授業

1. はじめに

山口大学の教育理念は「発見し、はぐくみ、かたちにする『知の広場』」である。

大学が進める教育、研究、あるいは社会貢献活動は、この理念に基づいて行われている。だが、現実眼に目を置いて、受験生や地域の人たちに大学情報がどう発信され、受け止められているのか、詳しい検証はほとんど行われていない。入試広報の柱となっている「大学案内」やインターネットを活用したホームページも、構成は学部中心の教育体系を一方的に紹介する編成で、受験生が求める大学総体の姿を知る場とは言い難い。

一方、受験生を送り込む高校側も、高大連携教育を推進する立場から、10年前、「個性化教育」の推進を掲げ、「学問に対する興味・関心を高める」ことで大学との協力体制を構築した。いま新学習指導要領で「特色ある学校づくり」が求められるようになり、「進路意識への明確化」に重点を移す形となってきたが、その方策となるとどの学校も定かな方針を決め得ていない。

大学側と高校側の双方の取り組みが時代の要求にうまくマッチングしているのか。高大連携教育の柱となっている「出前授業」を検証することによって問題点をみつけ、新たな方策を探りたい。

2. 山口県内における高大連携教育の現状

山口県内には、平成15年3月1日現在で、公立高校が72校（生徒数3万2635人）、私立高校が20校（1万1212人）の計92校（4万3847人）がある。従来、高大連携教育とえば、大学から講師派遣を受け、講義を行ってもらう「出前授業」と大学が主催するオープンキャンパスや公開講座に生徒を派遣する「体験型授業」が柱となっていた。

そして、2年前、「特色ある学校づくり」推進の方針が決定され、山口県教育委員会は、平成14年度からの2ヵ年継続事業で、県内14大学（短大を含む）と「山口県高大連携教育研究協議会」を設立。大学が集中する山口地域と下関地域で、公立、私立あわせて15高校をモデルに選定し、新しい高大連携教育の新

表1 モデル15校における形態別取り組み件数

| | 平成14年度 | | 平成15年度 | |
|--------------------|--------|-------|--------|-------|
| | 取り組み件数 | 参加生徒数 | 取り組み件数 | 参加生徒数 |
| 大学から高校へ (講師招聘) | 30 | 2919 | 37 | 2540 |
| 高校から大学へ (大学訪問) | 19 | 439 | 33 | 1270 |
| 校外学習 (現地研修) | 3 | 35 | 2 | 58 |
| その他(教員の 研修会等含む) | 3 | 7 | 1 | 0 |

しい手法の開発に取り組むことにした。

表1に示した平成15年度の74件(教職員研修1件を除く。16年3月末概数)について、高校の取り組みと位置づけを形態別にまとめたものが表2である。

表2 モデル15校における取り組みと位置づけ

| 位置付け ねらい | 実施形態 | 教科指導 | 総合的な学習 の時間 | 特別活動 | 長期休業中 土曜日・ 放課後 | 合計 |
|----------------|------|------|---------------|------|----------------------|----|
| 進路意識の明確化 | 講師招聘 | | 3 | 2 | 3 | 8 |
| | 大学訪問 | 1 | 4 | 8 | 8 | 21 |
| 学習内容の深化 | 講師招聘 | 12 | 1 | | | 13 |
| | 大学訪問 | 2 | | | | 2 |
| | 現地研修 | 1 | | | | 1 |
| 学習への動機づけ | 講師招聘 | 10 | 1 | | | 11 |
| | 大学訪問 | 1 | | 2 | | 3 |
| | 現地研修 | | | 1 | | 1 |
| 進路学習 上級学校研究 | 講師招聘 | 1 | | 3 | 2 | 6 |
| | 大学訪問 | 1 | | | 1 | 2 |
| 環境学習 | 講師招聘 | | 1 | | | 1 |
| | 大学訪問 | 1 | 1 | 1 | | 3 |
| 学習機会の拡大 | 講師招聘 | | | | | 0 |
| | 大学訪問 | | | | 1 | 1 |
| 先端技術体験 | 講師招聘 | | | | | 0 |
| | 大学訪問 | 1 | | | | 1 |
| 合計 | 講師招聘 | 23 | 6 | 5 | 5 | 39 |
| | 大学訪問 | 7 | 5 | 11 | 10 | 33 |
| | 現地研修 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |

取り組みのねらいとしては、「進路意識の明確化」が最も多く29件で、参加生徒は前年度に比べて600人の増加となった。「学習内容の深化」、「学習への動機づけ」が続く。このうち、「進路意識の明確化」においては、大学訪問が27件中21件を占めている。少人数教育を進める私立高校が主体で、生徒たちを直接大学に触れさせてより大きな効果を期待していることがうかがえる。また、公立高校は一日総合大学など多数の大学教員を学校に招き、大規模な集中講義を行う方向に進んだ。一方、「学習内容の深化」、「学習への動機づけ」については、31件中24件が講師の招聘となっている。

さらに、高校の教育活動への位置付けでは、「教科指導」が最も多く31件であり、「特別活動」が17件、「長期休業中・土曜日・放課後」が15件となっている。「教科指導」、「総合的な学習の時間」に位置づけた取り組みでは、42件中29件が講師招聘であり、「特別活動」、「長期休業中・土曜日・放課後」に位置づけた取り組みでは30件中21件が大学訪問となっている。

3. 「出前総合大学 in 山口」の実施

モデル事業の中で新しい取り組みとして、複数の高校と大学が連携して合同授業を行う

「出前総合大学 in 山口」を行った。企画段階の協議で、高校側は①より多くの大学教官と交流を深め、情報の収集に努める、②プロジェクトやビデオの活用など大学の講義手法を見学し、高校の授業活性化に生かす、③複数の高校間で事前準備の教員交流を行い、地域高高連携の取り組みを模索した。大学側

は、①学問への興味づけと基礎学力の把握、②多様化する需要に対処する大学システムの検討、③進路指導と大学広報の一体化などを主目的として実施した。

第1回『出前総合大学』

平成15年3月17日実施(表3)

表3 山口中央高等学校会場

| | タ イ ト ル | 講 師 大 学 | 人数 |
|----|-------------------------------|-----------------|-----|
| 1 | 手遊び・指遊びの世界 | 山口芸術短大保育学科 | 30 |
| 2 | 外国、外国人、外国語 | 山口大学人文学部 | 42 |
| 3 | マスメディアと私たちの生活 | 山口大学経済学部 | 42 |
| 4 | 進化する電池～ケイタイから電気自動車まで | 山口大学工学部 | 38 |
| 5 | 医学部医学科への志望者に望まれるもの | 山口大学医学部 | 27 |
| 6 | 大学の数学を学ぶ者に立ちほかかる二つの壁 | 山口大学理学部 | 25 |
| 7 | 動物の行動とコミュニケーション | 山口大学理学部 | 42 |
| 8 | 山口県の活断層と地震 | 山口大学理学部 | 15 |
| 9 | 心理学入門～心理学への期待と誤解 | 山口大学教育学部 | 103 |
| 10 | 遺伝子組み換えは21世紀の食料・環境問題のキーテクノロジー | 山口大学農学部 | 39 |
| 11 | やまぐちを学ぼう | 山口大学アドミッションセンター | 28 |
| 12 | 高校生のための教育学入門 | 山口大学大学教育センター | 41 |
| 13 | 21世紀人類の食糧は大丈夫か？ あなた達への提言 | 山口県立大学生生活科学部 | 39 |
| 14 | デザインと生活 | 山口県立大学生生活科学部 | 41 |
| 15 | ピアノ公開レッスン | 山口芸術短大音楽学科 | 29 |
| 16 | 村上春樹と《最初の夫の死ぬ物語》 | 山口大学人文学部 | 40 |
| 17 | 日本語をみつめて | 山口大学人文学部 | 42 |
| 18 | 刑事ドラマを楽しく観るために～刑事法の基礎 | 山口大学経済学部 | 84 |
| 19 | 遺伝子DNAと酵母菌 | 山口大学工学部 | 41 |
| 20 | どうなる？ゴミ問題！いま私たちがなすべきこと | 山口大学工学部 | 27 |
| 21 | 最近のHIV感染症の動向 | 山口大学医学部 | 42 |
| 22 | マンモスの復活に向けて | 山口大学農学部 | 42 |
| 23 | 地球の歴史を考える | 山口大学教育学部 | 28 |
| 24 | 魚類における外来種問題 | 山口県立大学生生活科学部 | 26 |
| 25 | 「脂肪がつきにくい油」ってどんな油？～油の不思議～ | 山口県立大学生生活科学部 | 43 |
| 26 | 米国の文化について | 山口県立大学国際文化学部 | 42 |
| 27 | 母性を科学する | 山口県立大学看護学部 | 26 |
| 28 | 地域福祉とソーシャルワーカーの役割 | 山口県立大学社会福祉学部 | 33 |
| 29 | 電子オルガン公開レッスン | 山口芸術短大音楽学科 | 3 |
| 30 | コンピューター・グラフィックス入門 | 山口芸術短大芸術文化学科 | 24 |
| 31 | 陶芸制作実技講座 | 山口芸術短大芸術文化学科 | 17 |

参加大学

山口大学(派遣19人)
山口県立大学(8人)
山口芸術短期大学(5人)

計 32人

全員(1学年235人,2学年230人)

西京高校
希望者(1学年37人,2学年59人)
山口高校
希望者(1学年10人,2学年10人)
中村女子高校

参加生徒

山口中央高校

希望者(2学年3人)

計 585人

高校側の準備と反省点

- ・授業テーマの設定は、生徒の希望が多様化して集約できず、結局、進路指導調査などを参考に教員間で割り振った。
- ・授業時間の設定は、大学と同様1コマ90分とし、生徒一人2コマの受講を認めた。講座によって集中力が維持できず、私語が目立つなどの結果となった。
- ・開催時期は新学年を迎える前の3月実施が最適と一致したが、1高校での開催は教室の確保、資料の調達がきわめて困難となった。

大学側の準備と反省点

- ・講師派遣を受け入れる窓口が学部であり、高校側の希望を満たす人選と日程調整に苦労が続いた。
- ・参加した大学の間で、旅費、講師料の支給、実験資料の搬入などが不統一で、調

整に苦労。

課題の解消と次年度対策

出前授業を始めとした高大連携教育は、従来、大学側の経費負担によって実施されてきた。高校側も、教員の知り合いなどを通じ大学側と個別に交渉して授業を行ってきたが、規模を拡大し、生徒の希望を聞きながら計画を実施するとなるとさまざまな問題が浮上してきた。ひとつひとつの授業に対する事前の準備も精細さを欠き、生徒の評価に否定的な意見はほとんど無かったものの、主目的とした「進路選択の参考」になったかの質問に対して「はい」と肯定した回答は1学年で27%、2学年で37%に止まり、「興味・関心」と「進路意識」の意見のずれや学年による差が見られた。

第2回「出前総合大学」の実施
平成16年3月17日実施(表4)

表4 山口中央高等学校会場

| | タ イ ト ル | 講 師 大 学 | 人数 |
|----|------------------------------|---------------------|-----|
| 1 | あそびうたと子どもの発達 | 山口芸術短大保育学科 | 30 |
| 2 | 伊勢物語を読む | 山口大学人文学部 | 49 |
| 3 | 日英語のアクセントのメカニズム | 山口大学人文学部 | 43 |
| 4 | 日本語の方言アクセントの歴史的研究 | 山口県立大学国際文化学部 | 41 |
| 5 | 古代文学の恋愛 | 山口大学教育学部 | 120 |
| 6 | 経営学を学ぶ目的ー現実の企業の動きについての理解を深める | 山口大学経済学部 | 42 |
| 7 | マスメディアと私たちの生活 | 山口大学経済学部 | 44 |
| 8 | 少子・未婚社会日本に未来はあるか? | 山口大学経済学部 | 26 |
| 9 | 運動と健康 | 山口大学教育学部 | 44 |
| 10 | 外傷についての応急処置行動ー摂食障害のケースからー | 山口県立大学看護学部 | 44 |
| 11 | 青年期の揺れる心 | 山口大学教育学部 | 40 |
| 12 | 大学で何を学ぶか | 山口大学アドミッションセンター | 83 |
| 13 | シンガポール、マレーシア、インドネシアの美術と美術教育 | 山口大学教育学部 | 31 |
| 14 | ピアノ公開レッスン | 山口芸術短大音楽学科 | 32 |
| 15 | 村上春樹と《最初の夫の死ぬ物語》 | 山口大学人文学部 | 44 |
| 16 | かけがえのない言葉ー日本語の働きと変化・形成ー | 山口大学人文学部 | 37 |
| 17 | グリム童話の伝えるメッセージ | 山口大学人文学部 | 85 |
| 18 | 刑事ドラマを楽しく観るためにー「正当防衛」って何だ | 山口大学経済学部 | 119 |
| 19 | 少子・未婚社会日本に未来はあるか? | 山口大学経済学部 | 26 |
| 20 | あなたも国際貢献の主役になれる | 山口県立大学国際文化学部 | 41 |
| 21 | 山口らしさを感じさせるファッションや生活小物の商品開発 | 山口県立大学生活科学部 | 42 |
| 22 | 韓国の文化と社会 | 山口県立大学国際文化学部 | 39 |
| 23 | こころが生きる「昔話」ーこころの深層ー | 山口県立大学社会福祉学部 | 41 |
| 24 | 運動が身体形態および機能に及ぼす影響 | 山口県立大学看護学部 | 48 |
| 25 | 生きるーある若者との出会いに学ぶー | 山口県立大学社会福祉学部 | 43 |
| 26 | 人とものがたりの関係を創るということー読書療法の窓からー | 梅光学園大学言語コミュニケーション学部 | 40 |

山口芸術短期大学会場

| | タ イ ト ル | 講 師 大 学 | 人数 |
|---|------------------|--------------|----|
| 1 | 電子オルガン公開レッスン | 山口芸術短大音楽学科 | 3 |
| 2 | コンピュータ・グラフィックス入門 | 山口芸術短大芸術文化学科 | 28 |
| 3 | 陶芸制作実技講座 | 山口芸術短大芸術文化学科 | 34 |

山口高等学校会場

| | タ イ ト ル | 講 師 大 学 | 人数 |
|----|------------------------------|---------------|----|
| 1 | 動物の発達のしくみと生殖工学 | 山口大学理学部 | 19 |
| 2 | 衝突と地球惑星：秋吉地域のできかた | 山口大学理学部 | 12 |
| 3 | 「植物の水分調節」から考える世界の水問題 | 山口大学農学部 | 13 |
| 4 | アニメーションを通して物理を学ぶ | 山口大学工学部 | 20 |
| 5 | ゼオライトヒートポンプで省エネルギーを | 山口大学工学部 | 20 |
| 6 | 遺伝の不思議 | 山口大学医学部 | 28 |
| 7 | 訳読しない理系のためのSSS英語多読法 | 山口大学医学部 | 75 |
| 8 | 音を見る | 山口東京理科大学基礎工学部 | 8 |
| 9 | 電気を通すプラスチック | 山口東京理科大学基礎工学部 | 21 |
| 10 | 食物アレルギーのしくみ | 山口県立大学生生活科学部 | 8 |
| 11 | 宇宙の不思議 | 山口大学理学部 | 72 |
| 12 | 有機化合物と薬の話 | 山口大学理学部 | 20 |
| 13 | 数の世界 | 山口大学理学部 | 13 |
| 14 | 病害虫対策として、科学農薬に替るバイオ（酵素）農薬の開発 | 山口大学農学部 | 10 |
| 15 | 液体窒素を利用した極低温実験（体験学習） | 山口大学工学部 | 30 |
| 16 | 身近で不思議な材料・高分子 | 山口大学工学部 | 19 |
| 17 | 遺伝子組み換え食品の現状と未来 | 山口大学工学部 | 21 |
| 18 | 音を見る | 山口東京理科大学基礎工学部 | 0 |
| 19 | 電気を通すプラスチック | 山口東京理科大学基礎工学部 | 12 |
| 20 | 豆腐の風味について | 山口県立大学生生活科学部 | 19 |
| 21 | 昆虫の環境適応戦略 | 山口県立大学生生活科学部 | 8 |

山口コ・メディカル学院・山口インフォメーション・カレッジ会場

| | タ イ ト ル | 講 師 大 学 | 人数 |
|---|---------------|-------------|----|
| 1 | コンピュータ入門 | 山口インフォメーション | 23 |
| 2 | コンピュータ入門（初心者） | 山口インフォメーション | 4 |
| 3 | 理学療法 | 山口コ・メディカル | 31 |
| 4 | 作業療法 | 山口コ・メディカル | 2 |
| 5 | 言語聴覚療法 | 山口コ・メディカル | 3 |

参加大学

山口大学（派遣28人）
 山口県立大学（11人）
 山口東京理科大学（2人）
 梅光学院大学（1人）
 山口芸術短期大学（6人）、
 山口コ・メディカル学院（3人）、
 山口インフォメーション・カレッジ（3人）
 計 48人

参加生徒

山口中央高校
 全員（1学年234人，2学年230人）
 西京高校
 希望者（1学年70人，2学年50人）
 山口高校
 2学年全員（2学年377人）
 計 961人

高校側の準備と反省点

- ・学年の授業がすべて完了した段階で実施する企画だけに、前年度の反省から「学問への興味・関心」よりも生徒が主体的に学部・学科を選択させる「進路指導」に重点をおいて事前指導を行った。
- ・講座数を56と倍近くに増加させ、授業時間を大学の1コマ90分から高校並みの1コマ60分に縮小し、前年同様2コマを聴講させた。
- ・事後アンケート(無記名)で90%を大きく超える生徒が意欲的に取り組み、学問に対する理解が深まり、興味・関心も高まったと評価した。しかし、主目的の「進路選択の参考になったか」の質問に対し、「はい」と積極的に答えた生徒が37%と他の質問に対して大幅に減り、「まあまあ」が約半数、否定的に「いいえ」が15%と増える結果となった。詳細を見ると、4年制大学への進学を中心とした高校で不満が高く、専門学校、短期大学も含めた幅広い進学を目指す高校で満足が多い。また、進学と就職を両立させようとする高校では、生徒の反応にばらつきがあり、今後の課題として残った。

大学側の準備と反省点

- ・高大連携教育の取り組みが促進され、年間を通じて出前授業や公開講座などの需要が大幅に増えてきた。各大学ともエクステンションセンターの設立や生涯教育センターの活用などで窓口の一本化を図り、高校側の負担軽減や講座内容の事前表示などの改善に努めた。
- ・反面、講義名のタイトル、講義内容の解説などが大学生、大学院生、社会人向けなどのままとなっていて、受講する高校低学年には難しく、生徒の興味・関心を逆に遠ざける結果となるものも見られた。

課題の解消と次年度対策

これらの課題を総合的に判断すると、規模の拡大が必ずしも生徒のために有効な手段と判断することは出来ない。小規模運営、個別対応化すると、高大連携事業が複雑化し、高校と大学教員のボランティアによる運営はより困難となる。

高大連携教育を推進するための問題点として、次のような課題が浮かび上がった。

高校側の課題

連携教育実施のための時間確保、
高校の教育活動、指導計画への位置づけ
高校生にとっての意義の明確化、
指導法の開発、取り組みのための工夫
参加生徒の決定方法の開発

大学側の課題

高校と授業内容の調整、意義の明確化
各大学における連携窓口の設置
連携教育にかかる大学情報の提供

連携方法の課題

地域分散型の山口県での連携方法のあり方
新たな連携方法の開発(サテライト講座等、
ネットワークの活用)

高校と大学間の調整上の課題

高校生、高校側のニーズの把握
高校教員と大学教員の交流
日程調整や事前打ち合わせのルール化
必要な経費・予算の確保
県教委と大学の関わり(協定書の調印など)

4. 高大連携教育と大学入試広報の課題

高大連携教育の柱となっている「出前授業」は発足して10年が経過した。その間、社会は変化した。高校の生徒数は激減し、進路に対する希望も多様化している。その結果、大学と専修学校の区別もあいまいとなり、授業を行う方(大学側)と受ける方(高校側)の意識の違いも目立つようになった。

今回は、現行の高大連携事業（出前授業）を検証することによって、大学はどのような情報を提供すればよいか、その改善策を探り出すことに力を入れた。仮説を整理すると、出前授業の目的、①「学問に対する動機づけ、理解の促進」、そして②「興味感心を深める」を発展させることから、③「進路選択」のための情報提供、④特定大学への進学にまで誘導出来る方策をみつけることにある。そのためには、⑤互いに「善意による奉仕」を持って連携事業に取り組む新しいシステムの構築も必要となった。

このうち、情報提供の改善策は一部実行に

移している。そのひとつとして、入試要項などと合わせて発行する大学案内の改革がある。つまり、高校低学年対象の冊子は「進路選択」の記事に特化し、総合学習の副読本として活用できるように工夫する。さらに進学を目前にした3年生や浪人生向けに別の冊子「受験情報」を発行する。また、多機能を持つホームページの活用にも力を入れる。

国立大学法人に移行した結果、新たな発想に基づく組織の見直しも必要となるが、学内と学外の信頼関係を維持・発展させるためにもさらなる努力を続けたい。

（アドミッションセンター 教授）